

学番	13	県立巻総合高等学校
----	----	-----------

令和4年度

学校自己評価表（計画）

学校運営計画			
学校運営方針	1 自己実現に向けた確かな基礎力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 郷土を愛し、地域に貢献する態度の育成 4 ICTの活用 5 働き方改革推進		
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標	
新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休業が複数回あったが、計画を見直し形態を工夫することで体育祭や文化祭は開催することができた。県外体験学習については、延期して別の形での実施を考えている。巻総CHATの活動は、規模を縮小しながら実施することができた。また、活動内容を次年度に継続するため、リモートによる学習発表会を行い、全校生徒が活動内容を共有することができた。	1 進路希望実現のための具体的な取組を一層推進する。	①学習習慣や基礎学力の定着、学力向上のための取組の推進 ②主体的・対話的で深い学びをととした授業改善、課題解決型授業の推進 ③総合学科の特色を生かしたキャリア教育の一層の推進	
	2 規範意識を高め豊かな人間性を育む教育活動を推進する。	①部活動の活性化 ②いじめ等防止指導の充実 ③挨拶等のマナー指導の強化 ④道徳教育の推進	
	3 地域連携活動等を充実させ、本校の特色化を推進する。	①巻総CHATプロジェクトの推進 ②学校説明会等の拡充 ③地域の教育機関や福祉施設等と連携した体験的学習、交流会等の実施	
	4 ICTの活用を推進する。	①ICTを活用した授業改善	
	5 「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」に従い、見直し、改革を推進する。	①勤務時間に対する意識改革 ②部活動指導の適正化 ③業務の削減・簡素化・効率化 ④教育課程の整理	
重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
基礎学力充実及び進路実現のための	授業の内容が明確化された、分かりやすい授業を展開する。	生徒への学習の指針を示すため、適切な年間指導計画（シラバス）を作成する。同時にWEBページ等に掲載し公表する。	
		各教科・科目からの課題について、添削指導を行うことにより家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	
応用力養成に向けた指導力向上	進学希望者に対する指導の強化を図る。	進学希望者には、入試（一般・推薦）に対応できる力を付けさせるための個別指導を行う。	
		生徒の学力向上のため、教科会議を開催し、情報交換に努める。	
基本的生活習慣と交通安全指導の徹底	基本的生活習慣の確立	日々の登校指導を行いマナーやモラルを向上させる。	
		頭髪・服装指導は共通認識を持ち、全職員である。さらに、定期的に検査を実施し徹底を図る。	
		挨拶を励行し、来校者や地域に愛される学校を目指す。	
	交通マナーと交通安全指導による事故防止	原動機付自転車通学者対象の実技講習会を年2回実施する。	
交通講話を年1回、実施する。			

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
各年次、各教科との連携による進路指導の充実	進学希望者の合格率100%を目指す。	各教科、各年次と連携して、放課後および長期休業中における進学補習を実施する。 各年次と連携し、面接指導、校外模試、上級学校訪問を実施する。	
	就職希望者の内定率100%を目指す	会社見学などにより職業意識を向上させるほか、校内ガイダンスを実施して就職後の早期退職防止の一助とする。 教職員の企業訪問による情報収集、面接指導等により内定率の向上を図る。	
生徒会活動、部活動の活発化による学校の活性化	自主性を持った生徒を育成。	学校行事（体育祭、文化祭等）を通して、生徒会役員をはじめ全生徒が自主的に活動できるようにサポートを推進する。	
	生徒会活動、部活動の活発化。	定期的な生徒会執行部の話し合いを開催し、その内容が全生徒に伝わるための組織を構築する。 部活動の顧問会議を定期的で開催し、長期休業中の活動計画、活動場所の調整、予算等について、連絡・連携を密にする。	
健康教育の推進及び学校環境の整備	健康教育を推進し、感染症予防に対する意識を高める。	保健委員会の活動の活性化を図る。 感染症予防活動を励行し、情報共有に努め、罹患者のまん延防止、予防に努めるとともに、罹患者の対応とケアに全職員で取り組む。	
	学校環境の整備に努める。	清掃区域の分担表により全監督者が清掃指導を徹底して行う。 防災避難訓練を実施し、非常時における適切な対応を学ばせる。	
		ごみの分別に対する意識向上をさらに図るとともに、ごみを減らし地球環境への配慮の精神を養うよう啓発活動を行う。	
P T A活動の活性化	P T A総会の参加者を増やし、学年P T Aの活発化を図る。	総会、学年P T Aを保護者の参加しやすい日程に設定し、参加者数を増加させる。 総会日程に公開授業や進路説明会を盛り込むなど、保護者の参加が増えるための工夫をする。	
I C Tを活用した教育活動の推進	生徒の能動性を引き出す授業改善に努める。	問題や資料の提示にI C T機器を利用した授業を展開し、教員相互の授業公開や意見交換を行い、より分かる授業につなげる。	
		生徒に割り当てたアカウントを利用し授業改善に努めるとともに、教科データの送受信を行うなどして個別指導の充実にもつなげる。	
		I C Tの活用について職員研修を定期的で開催し、スキルの向上に努める。	
		ネットワークを利用して、WEBミーティング・アンケート集計・情報共有を行い、校内業務のスリム化を図る。	

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
図書館、視聴覚教育の充実	図書館・視聴覚教室の積極的活用	PRを活発に行い、生徒、職員の積極的な利用の促進を図る。	
		図書委員会活動の活性化を図り、読書習慣の形成につなげる。	
		視聴覚教室の環境整備と視聴覚機材の充実を図る。	
人権・同和教育の推進	差別を許さず、差別を見抜く生徒の育成	年次別の学習により差別の歴史、実態を学び、差別をなくすためにすべきことを考えさせる。	
		視聴覚教材の使用、講演会の実施により具体的に差別の歴史、実態を学び、差別を許さない意識の醸成を図る。	
	教職員研修の充実	教職員対象の校内研修会を開催する。	
		各種研修会への積極的参加を促し、その内容について情報共有を図る。	
生徒の見守りの強化	全職員が生徒の悩みに寄り添い、いじめを見逃さない意識の強化	特別支援教育コーディネーターを中心とした職員間の情報共有により、悩みを抱えた生徒に家庭と連携したサポートを着実に行う。	
		全職員が窓口となり生徒からの相談に対応し、いじめ防止推進教員を中心に、いじめを認知した場合は全職員の情報共有をとおして、組織的に対応する。	
働き方改革の推進	時間外勤務時間月45時間以内、年間360時間以内を目標とし、特に、月80時間超、年間720時間超をゼロとする。	タイムカードを活用し在校等時間を随時確認するなど、勤務時間に対する意識改革に努める。	
		生徒の休養、職員の働き方改革の両観点から、参加大会等の精選や活動時間の調整、活動内容の工夫に努める。	
		複数顧問の適正配置にむけ、部活動数の見直しを検討し、部活動の存続や廃止の方針を策定する。	
		分掌や学年、教科、部活動など日々の業務を点検し、一部の職員に負担が集中しないよう平準化を図る。	
成果			総合評価